

国連社会経済理事会アニア・メズーイ NGO 部長から 9 条世界会議へのメッセージ

*メズーイ NGO 部長はご家族の事情により急遽来日が困難となったため、その思いをメッセージに託され送ってこられました。以下はその要旨翻訳です。

2008 年 5 月 2 日

親愛なる 9 条世界会議参加者の皆さん、NGO 代表の皆さんへ

国連経済社会理事会 NGO 部長 として、そして世界のすべての人のための平和、理解と調和を重んじる者として、この 9 条世界会議にメッセージを送る機会が与えられたことを大変嬉しく、また大いに誇りに感じております。残念ながら家族の緊急な事情により、私自身が出席できなくなってしまったことをお許し下さい。

国際社会が、数々の破壊的な武力紛争に対峙する今、政策立案者が国際紛争の解決にあたり、戦争や紛争を効果的な国際関係の選択肢として放棄し、より平和的な問題解決のあり方を選択することを促すためにも、平和を担う者たちが行動しなければならないことを、この会議は示しています。国家間の争いを解決するにあたり、国連憲章の理念を遵守する指導者が必要です。単独行動主義は、非生産的であり効果的でないものとして否定されるべきです。

この会議は、日本国憲法に定められている平和への価値の現れであり、日本が平和主義国家であり続け、日本の政策立案者が核兵器を含む大量破壊兵器を廃絶する必要性に敏感であり続けることを求める日本市民社会の決意の現れだと感じています。(ヒロシマ・ナガサキの悲劇を経て、戦後の新憲法という) 新たな世代による平和に対する決意は日本にきわめて短期間で経済成長をもたらし、世界第二位の経済力を持つ国家にしました。加えて、日本は世界の中でも有数の国際開発援助国となり、国連分担金も米国について二番目に多く支払う国となったのです。

しかし、21 世紀に入り、私たちは、軍事費の危機的増加を目の当たりにしています。これは世界の平和と安定に対する多大なる危機を意味します。2002 年、8,940 億ドルだった世界の軍事費は、2006 年には、1 兆 2,050 億にも膨れ上がり、世界の GDP の 2.5% を占めるに至ったのです。

一方、国連は(このような状況のなか) 21 世紀の初めから、グローバリゼーションによってもたらされた様々な困難に直面する途上国への国際社会の協力を絶えず促し、28 億人もが苦しむ貧困の解決に努力を続けてきました。そして 189 カ国の国家元首と政府によって採択されたミレニアム開発目標 (MDG) に基づき、貧困ライン以下で生活する人々や飢餓状況にいる人々の数を半減させるなどの諸目標達成のために、先進国が各国の国内総生産の 0.7% を国際開発援助にあてるという 1992 年のリオ・サミットでされた約束を再確認しました。

しかし、目標の 2015 年まで中間地点を過ぎた今、ほとんどの途上国、特にアフリカ諸国はこれら MDG を達成できそうにもありません。先進国がこれらの国の経済と人々の生活状態を大幅に改善する支援をしない限り、MDG の達成は不可能であることがさまざまな報告によって明らかにされています。にもかかわらず裕福な国々は、国際経済システムの全ての受益者の利益に合った新たな協力の枠組み作りを進めるどころか、個々の利益にのみ基づいた戦略をとり、世界における緊張関係を助長し、貧富の差を拡大させているのです。

平和、そして協力に基づく国際システムを支持する人々は、多くの先進国がその国家予算の多くを軍事費に費やしながらか、半世紀以上も途上国への支援に消極的であったことを残念に思っています。もし先進国によりよい世界をつくり、国際社会における危機を回避する意志が本当にあるならば、まずすべきことは途上国の MDG 達成に向けた努力を支援するために、国際開発援助と債務免除の約束を果たすことです。先進国は、緊張を高め、壊滅的な紛争のリスクを高める破壊的な兵器をさらに購入するのではなく、軍事費を見直し、途上国と協力しながら、経済と人々の生活を改善するための努力を今こそすべきなのです。

国際社会が紛争と緊張関係を煽る軍事費に 1 兆 2,000 億ドルをも費やし、開発援助にはたったの 800 億ドルしか費やしていないことを悔しく思います。もし先進国が、途上国の経済状況を改善する努力を支援し、自己利益のみを追求した国際システムを構築しようとしなければ、世界はより安全で、より平和で、より安定した場所になるでしょう。こうした環境においてなら間違いなく、国際社会は、MDG の実現を支援するにふさわしい状態になり、貧困の中で生活する世界の三分の一の人々の経済状況改善へ向けた貢献もできることでしょう。

最後に、この会議の成功を願うとともに、国連が、国連憲章 26 条に掲げられた軍事費縮小、軍備管理を実現させ、よりよい世界を実現するために引き続き努力を惜しまないことをお約束します。